
「約束の丘で～大好きなキミへ～」

R i n

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「約束の丘で〜大好きなキミへ〜」

【Nコード】

N2520Z

【作者名】

Rin

【あらすじ】

オレと美香のお気に入りの場所。

そこは、病院のすぐそばにある。

キレイな鐘の音を聴きながら、

オレは、「早く大人になりたい」

そう、願っていた・・・。

オレにできること

第1話

あの出会いから、7年が過ぎた。

オレは、小学6年になった。

オレは毎日、学校が終わると、妹が入院している病院へ、走っていった。

病院は、丘のすぐそばにあり、窓から眺めることができる。オレの家から走って、大体10分くらいのところ。

夏なんかは、花火も見えたりする。

午後4時半。結衣の見舞いが終わったオレには、もうひとつ、行くところがある。

階段をかけのぼり5階へ行き、廊下を、看護師さんに見つからないよう、そっと走る。

そして、廊下の一番奥にある病室の前で、止まる。

深呼吸をし、ドアを、コンコンと軽く叩き、静かにドアを開ける。

「わ……。」

風で、カーテンがなびき、光が反射した。

その光の中に、輝くような笑顔が1つ……。

「あ、凌太！」

そう、ここは彼女の病室。

「おっす、美香。」

オレも、美香に笑いかけた。

「遅いぞ、凌太！待ちくたびれちゃった。」

すねたように頬を膨らませ、無邪気に笑う美香。

その可愛らしい笑顔は、昔と変わっていないかった。

「ごめんごめん、委員会が長引いちゃってさー。」

「凌太、委員長さんだもんね。大変だね。」

「まあ、大変だけど楽しいよ。」「そっか。」

美香が、深いため息をついた。

「いいなあ、凌太は。アタシも学校行きたいよ。」

「美香…。」

美香には、心臓の病気がある。

妹の結衣よりも、もっともっと、重い病気。

二十歳まで生きられるかもわからないって、美香のお母さんが言っていた。

だから美香は、学校に行くことができない。

それどころか、3歳から入院してるから、外の世界を知らない。

山も、海も、動物園も、女子がよくいくショッピングモールも、実際に見たことは1度もない…。

「美香…、学校行きたいよな…」だけど、オレが落ち込むと、

「行きたいけど、アタシ、凌太が来てくれるから、充分楽しいよ！」

そう言つて、美香はいつも笑ってくれる。

美香は、昔からそうだ。

自分が辛くても寂しくても、我慢して、人のことばっか考えてる。7年前の、オレと美香が出会った日だって、一人でつまんなそうにしてたオレと、遊んでくれた。

本当はあの時、美香は病院から抜け出してきてて、すぐに戻らなきゃ自分が怒られんのに、
「平気！」と笑つてた。

そんな優しい美香が、オレは昔から大好きだった。学校で、友達と遊んでるより、美香といるほうが、心地よくて…、休みの日もずっと、美香のそばにいた。

「変な凌太」

そう言つて美香は笑うけど、オレは本当だった。

美香のそばにいてやりたい…。

心の底から、そう思っていた。

「ね、凌太！もうすぐ5時だよ！あそこ…、いかない？」

「えっ、また？美香、本当に好きだよな！。体調は、今日はいいのか？」

「うん！早く行こ！」

「はいはい」

オレと美香が、決まっただけも行く場所…。

「着いたー！」

それは、病院のすぐそばにある、丘だった。オレと美香が出会った場所でもある。

「凌太、こっちー！」

「美香、待てよ！」

オレは必死に美香を追いかけ、坂を登った。

「ハア、ハア、美香早いよ。」

「えへへ」

息を整え、オレ達は、丘の頂上で座った。

時計の短針が、5時を差したその瞬間、

リンゴーン、リンゴーン…。

鐘の音が響き渡り、辺りが静寂に包まれた。

「やっぱりキレイだな…。」

鐘の音を聞きながら、美香は、胸の前で、手を握りしめた。

「凌太が、明日も笑顔で過ごせますように…。」

この町には、夕方5時になると必ず鳴る鐘がある。

誰が鳴らしてるかは知らないけどとにかくキレイで…。

オレも初めて聴いたとき、この鐘のとりこになった。

オレと美香は、鐘の音を聞きに、いつもここへくる。

そして、美香がオレの幸せを祈ってくれている。

「夕方5時の儀式」

オレはひそかにそう呼んでいた。

しばらく手を握りしめていた美香が、顔を上げた。

「もう…、帰ろっか。」

少し悲しそうな顔を見せ、美香は立ち上がり、ゆっくりと坂を下りだした。

美香が外に出ていいのは、特別な時でなければ、1日一時間だけ。その内の、オレと美香が一緒にいれる時間は、たったの30分…。

オレは、美香の悲しそうな背中を見ながら、悔しさがこみあげてきた。

「（美香には、悲しい思いさせたくないのに…。）」

オレははやく大人になりたい。美香の、悲しさや辛さ、寂しさを全て包み込んであげられるような男になって、美香を安心させてあげたい。

それが、オレが美香にしてあげられる唯一のことだから…。

オレは、広い広い大空を仰ぎながら、そう願っていた…。

第2話に続く…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2520z/>

「約束の丘で～大好きなキミへ～」

2011年12月8日23時56分発行